

岩手県から北海道へ

氏名 小野寺 英

岩手県平泉町立平泉小学校 → 北海道函館市立北美原小学校
(期間：平成30年4月1日～平成32年3月31日)

1 岩手県の教育

- 「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適応する能力を育てる「人間形成」
 - ・岩手の義務教育は、上記の「人間形成」を目指し、全ての子供たちに「社会人として自立して生きるための生活基礎力」と「学力の3つの要素」を確実に身に付けさせること、「社会を担っていくための勤労観・職業観」を養うことを目標としている。
 - ・学校教育の重点として、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する「いわての復興教育の推進」や児童生徒の学力向上やキャリア教育の充実、豊かな心・健やかな体を育む教育を推進する「義務教育の充実」などを設定し、教育活動を実施している。

2 学校や地域の特色ある教育活動

- ・平泉町立平泉小学校は、周囲に毛越寺や中尊寺などの世界遺産が在り、総合的な学習の時間を中心に、それらの世界遺産や平泉の歴史・伝統・文化について学習しながら、約束やきまりを遵守し思いやりをもって生活する「浄土の心」の育成に努めている。

【平泉小学校の学力向上方策】

- 『『確かな学び、豊かな学び』実現』プランの策定
 - ・岩手県の学力・学習定着度調査の数値目標を設定し、それに対して「学校全体での組織的な取組」「各学年・各教科・担任等による取組」「保護者（地域）を巻き込んだ取組」を決め、誰がいつ何を行うかを明確にして、それぞれの取組を進めている。
- 3つの視点から行う授業づくり
 - ・「いわての授業づくり3つの視点」を踏まえ、「学習の見通しがもてる授業づくり」「学習課題を解決するための学習活動の工夫」「学習感想カードを活用した学習の振り返り」を、どの教科の授業でも実施している。
- 繰り返し学習等の計画的・継続的な実施
 - ・曜日ごとに学習内容を決めて、朝学習に計画的に取り組んでいる（読書・視写・漢字ドリル・計算スキル）。
 - ・研究教科のテスト・ドリルを全校で揃え、指導や結果の分析に生かしている。
 - ・年間8回、各学年で漢字・計算のテストを実施し、基礎学力の定着に努めている。
- 支援の必要な児童への支援体制の確立・補充指導
 - ・特別支援コーディネーターと担任が連携し、算数科を中心にサポートが必要な児童への支援員の配置を決め、学習支援を進めている。
 - ・担任外を中心に、放課後や学期末の個別指導を計画的に進めている。

- **家庭学習と授業の連動と保護者と連携した家庭学習の推進**
 - ・授業の内容と連動するように家庭学習の内容を考えている。
 - ・「家庭学習の手引き」と「家庭学習の系統表」を作成し、保護者に配付している。学年ごとの学習時間や学習内容、記入事項、ノートの方眼サイズ、土日の家庭学習、保護者の印やサインの仕方などを具体的に記載し、学校と家庭で共通理解を図っている。
 - ・平泉町内の小・中学校で連携し、「家庭学習強化週間」を設定し、カードを活用して、家庭学習・音読・家庭読書の充実と、テレビ・ゲームの時間の調節、学習用具の前日準備の習慣づくりを進めている。
- **少人数指導などのきめ細やかな指導**
 - ・4・5・6学年の算数科の授業で、習熟度別コース学習を実施している。
- **各種調査結果の活用**
 - ・全国学力・学習状況調査（6学年）、岩手県学習定着度状況調査（5学年）、CRT（全学年）の問題を分析し、対策・補充の時間を年間指導計画に位置付けている。
 - ・「学習指導状況チェックシート」を作成し、担任は自分自身の指導状況の把握と反省を行い、それを授業改善に生かしている。
 - ・落ち込みの見られる問題について、研究会で教職員が実際に取り組んだり、問題のコピーを各教科の指導書に貼付して授業で重点的に指導したりしている。
- **学力の基盤となる生徒指導・学級経営の確立（全校が「揃う」生徒指導と学習規律）**
 - ・生徒指導主事を中心に、チャイム着席や授業の準備・あいさつ、礼、姿勢、話し方・聞き方・書き方、返事・反応の仕方などの学習規律・学習習慣の指導を徹底している。
 - ・全校で「～さん」（敬称）を付けた呼び合いとあいさつ・丁寧な言葉遣いを励行し、認め合い・助け合い・励まし合える温かい人間関係づくりに努めている。

3 私が取り組んできた実践

【学力向上の取組】

- **授業の充実**
 - ・学習課題と学習のゴールを明確にして、児童と共通確認しながら指導を進めた。
 - ・意図的にペアやグループなどの学習形態を工夫し、児童同士が関わり合って課題を解決したり、学習内容への理解を深めたりすることができるようにした。
- **家庭学習の充実**
 - ・課題（宿題）だけでなく、一人勉強（自学）にも取り組むことができるように、各教科の学習方法やノートづくりについて、時間をかけて具体的に指導した。
 - ・ノートコンクール、学年・学級間でのノート交流、授業参観日でのノート公開など、家庭学習の成果を認め合い、効果的な学習方法を広めることに努めた。

【生徒指導の取組（生徒指導主事として）】

- **予防的・組織的生徒指導の推進**
 - ・生徒指導通信を発行し、児童の生活・学習習慣で揃えることや学校・社会の約束・きまりについて職員間で共通認識をもって指導に当たることができるように努めた。
 - ・毎月、児童全員に「気になることアンケート」を実施し、早期対応に当たったり、職員会議で確認したりして、生活面や学習面で支援が必要な児童の情報が職員間で共有され、組織的に対応することができるようにした。